

鮫が城

廣瀬市

廣瀬慶二（大潟町渋柿出身）

自然が満ち溢れている高田城（別名、鮫が城、私はこの名前が気に入っている）の二の丸跡にある中学校での三年間は、青春のページとして鮮やかに今でも私の記憶に残っている。兵舎を改造した校舎の奥まった所にあつた理科室・実験用具がつまっていた準備室と指導していただいた田辺先生がおられなかったら研究者としての私はなかったであろう。当時、私は大潟村の犀潟駅から高田まで汽車通学し、高田駅から雁木の町並みを通り、外堀の運を見ながら校の公園に入り、中学校に通っていた。その汽車通学は今では死語であろうか。それから、半世紀が過ぎ、今では中学校の校舎もきれいに建て直され、公園には博物館や三重櫓が作られたり、公園全体の趣が少し変わったような思いもする。しかし校の木々は昔と同じように感じられる。

自然、特に樹の変化はゆつくりで、人の一生と比較するには無理がある。写真は今から六年前、定年を向かえ久しぶりに訪れた母校の校舎前でのスナップである。

私は、現在神奈川県藤沢市に居を構えている。春になるとやはり桜が気になり、近所の大学や街路樹として植えられている桜を見に行く。居間には、中学校の同級生であつた志賀君が画いた桜の油絵が飾つてあり、それが思いを高田に誘つてくれる。そんな忘れがたい桜と高田への思いとして、昨年Jネットが企画した桜の植樹に応募した。市の中心から郊外へ移転した県立中央病院前に新たに作られた新南公園の一角に私の苗木が植わっているはずである。もう三十年近くも毎年開かれている中学校の同級会が今年は十一月に新潟市で開かれる。

その帰りに高田に下車して自分の桜を見に行くつもりである。立派な桜に育ち花を開くにはどの位かかるのだろうか。そんな成長した桜を見たい思いはかなうのだろうか。

